

令和 5 年 1 1 月 9 日開催

河南町議会委員会会議録

予算・決算常任委員会

河 南 町 議 会

予算・決算常任委員会会議録

開催年月日 令和5年11月9日（木）午前11時20分

開催の場所 全員協議会・委員会室

出席委員 （9名）

委員長	高田伸也	副委員長	福田太郎
委員	松本四郎	委員	河合英紀
〃	大門晶子	〃	力武清
〃	佐々木希絵	〃	廣谷武
〃	浅岡正広		

欠席委員 （0名）

職権による出席者

議長 中川博

説明のための出席者

町長	森田昌吾
教育長	中川修
総合政策部長	渡辺慶啓
総務部長	多村美紀
住民部長	大門晃
健康福祉部長兼総合保健福祉センター長	田村夕香
まち創造部長	安井啓悦
まち創造部理事	玉田武久
総合政策部秘書企画課長	森口竜也
総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局局長	田中啓之
総務部人事財政課長	後藤利彦
（教育委員会事務局）	
教・育部長	谷道広

※各所属課の係長級以上も説明員として出席する

議会事務局職員出席者

事務局 局長 梅川茂宏

課 長 補 佐

門 林 純 司

課 長 補 佐

上 野 文 裕

付 託 議 案 議案第19号 令和 5 年度河南町一般会計補正予算（第 4 号）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

審 査 の 経 過

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

午前 11 時 20 分開会

○高田委員長

それでは、これより予算・決算常任委員会を開催します。

ただいまの出席委員は 9 名です。

河南町議会委員会条例第14条の規定により、定足数に達していますので、これより予算・決算常任委員会を開催します。

この委員会の傍聴ですけれども、委員会条例第17条の規定により、3階議会事務局前ロビーで委員会の模様をテレビモニターにより視聴いただきます。

なお、委員会の休憩中は音声を出さないことといたします。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

○高田委員長

先ほど開催しました臨時会議におきまして当委員会に付託を受けました議案は、議案第19号、令和5年度河南町一般会計補正予算（第4号）の審査についてであります。

委員会に対する町長からの説明員の通知は、議長宛てに回答がありましたので、タブレット804、令和5年度11月9日、予算・決算常任委員会のファイルに送信しております。

説明につきましては、歳入歳出一括して理事者より説明を願い、質疑をお受けしたいと思います。

補正予算の質疑が全て終了後、討論、採決に入りたいと思いますので、よろしくお願いします。

ここで、委員長より一言申し上げます。

発言される方は、挙手をして、指名を受けてから発言をお願いします。委員の質疑につきましては、簡潔明瞭にお願いし、理事者は質疑の内容を十分に把握され、的確な答弁をお願いいたします。

また、委員及び理事者は、必ず補正予算書のページを述べてください。

スムーズに委員会が進行できますよう、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

○高田委員長

ここで、委員会の開会に当たりまして、町長より挨拶の申出がありましたので、お受けしたいと思います。

森田町長。

○森田町長

先ほどの本会議に引き続きまして、常任委員会を開催いただきましてありがとうございます。

先ほどの本会議におきまして当委員会に付託されました補正予算の案件でございます。議案第19号、令和5年度河南町一般会計補正予算（第4号）、バスの継続費用についてでございます。

ご審議賜りまして、ご可決賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○高田委員長

町長の挨拶が終わりました。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

○高田委員長

それでは、議案第19号、令和5年度河南町一般会計補正予算（第4号）の審査に入ります。歳入歳出一括して説明をお願いします。

後藤課長。

○後藤総務部人事財政課長

それでは、タブレットのほうは、先ほどに引き続き、807、令和5年11月8日議案送付、11月臨時会議議案一式の令和5年河南町議会11月臨時会議資料のほうで、事項別明細のほうで説明をさせていただきますので、歳入のほうから、17ページのほうをお開きいただきたいと思います。

それでは、17ページからです。

まず、（款）地方交付税、（項）地方交付税、（目）地方交付税、普通交付税で505万7千円の追加でございます。こちらは、今回の補正予算で不足する財源を補填するために追加しております。令和5年度の普通交付税の決定額は22億4,428万7千円となっております。

次に、（款）使用料及び手数料、（項）使用料、（目）総務使用料、地域公共交通運行バス使用料で858万5千円の追加でございます。こちらは、本町が運行事業者として自家用有

償旅客運送の形態で運行いたします5路線の補完運行及び5路線以外の路線の運行に係る運賃収入を見込んでおります。

次に、(款)繰越金、(項)繰越金、(目)繰越金でございますが、今回の補正予算で不足する財源を補填するため、前年度繰越金6,264万9千円を追加しております。

次に、(款)諸収入、(項)雑入、(目)雑入、地域公共交通運行経費負担金で3,087万5千円の追加でございます。こちらは、本町が自家用有償旅客運送の形態で運行する路線の運行経費に対する4市町村地域公共交通活性化協議会からの負担金でございます。

歳入は以上でございます。

次に、18ページをご覧くださいまして、歳出でございます。

(款)総務費、(項)総務管理費、(目)一般管理費で1億716万6千円を追加しております。(節)需用費から(節)備品購入費と(節)公課費は、金剛バス廃止に伴う代替交通確保のため、本町が運行事業者として自家用有償旅客運送の形態で運行いたします白木線、河内線、石川・北大伴線とさくら坂循環線の朝晩の補完、阪南線の夜の便の補完運行に必要なとなる初期費用及び運行経費等の費用を計上しております。

上から順にご説明いたします。

まず、(節)需用費で、公用車ガソリン等569万5千円の追加はバスの燃料費の追加でございます。次に、印刷製本費で60万円の追加。こちらは、新たに購入いたしますバスの車両へ貼りつけする近畿運輸局登録番号等のステッカー作成費であります。次に、修繕料で225万円の追加。こちらは、車両の修繕料のほか、車検費用を見込んでおります。

次に、(節)役務費ですが、バスの法定点検手数料として24万円、自動車損害賠償責任保険料6万7千円をそれぞれ追加しております。

続いて、(節)委託料ですが、地域公共交通運行業務委託料として3,090万1千円の追加でございます。12月21日以降、年度末までの運行委託料でございます。次に、車両改修委託料575万3千円の追加です。こちらは、本町が運行事業者として運行いたします路線のうち、一部の路線、時間帯につきましては、現有のカナちゃんバスを用いて運行を計画しておりますけれども、富田林駅までの運行になりますことから、車両の行き先案内表示や車内放送設備の改修費、運賃箱や整理券発行機の設置費用など、バスの設備類の改修経費を見込んでおります。

次に、(節)備品購入費ですが、自動車購入費としてバス5台の購入費を追加しております。金剛自動車が使用されていたバスを購入するように予定しております。

次に、1つ飛びますけれども、（節）公課費で、自動車重量税30万8千円を見込んでおります。

以上が、本町が運行事業者として運行します部分についての直接経費となっております。

続きまして、1つ上に戻りますけれども、（節）負担金補助及び交付金、地域公共交通運行経費等負担金で5,035万2千円の追加でございます。こちらは、4市町村地域公共交通活性化協議会、広域協議会への負担金となります。概略として説明申し上げますが、主要5路線の確保として、広域協議会が近鉄バス、南海バスへ運行委託します経費及び本町を含め協議会の構成市町村が運行事業者として補完的に運行を行うのに必要な経費と金剛バスの事業廃止に伴います代替交通に必要な経費を集約し、所定の負担割合で算出された本町分の負担金の追加でございます。

以上、簡単でございますけれども、補正予算の説明とさせていただきます。

よろしくご審議の上、ご可決賜りますようお願い申し上げます。

○高田委員長

説明ありがとうございます。

それでは、別途、皆様のお手元に先ほどの議会運営委員会で資料の請求がございました資料をお配りしております。

これにつきまして、説明のほうお願いいたします。

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

すみません、それでは資料のほうの説明をさせていただきます。

2ページ、2枚物になっておりまして、まず1枚目でございますけれども、こちらは新しい交通サービスに係る経費一覧ということで、一覧表となっております。

今回、予算の計上させていただいております負担金の額でございますけれども、一番下の段の大きく4つの箱があるんですが、一番下の段の一番右端の河南町の欄をご覧くださいますと5,035万2千円とございます。こちらのほうが、今回、計上させていただきました予算となっております。

内訳としましては、一番上のところに額が出ておりまして、真ん中の段2つにつきましては導入経費、それから経常経費という形でちょっと分類しておりまして、一番下の行に総計を書かせていただいていると、そのような表となっております。

枠の部分につきましては、左側から、まず委員報酬、こちらは地域活性化協議会の委員報

酬となっております。

次は、事務費。これは、事務費や旅費等の事務経費を計上しております。

それから、1つ飛びまして、5路線と書いているのが、これは運行経費の欄でございます。5路線の欄が5路線で運行する費用となっております、運行経費、それから括弧書きでその一番上の段の上の欄外に書いておるんですが、運行経費2億2,077万8千円、それから運賃等収入見込み、この額が7,761万65円と、ちょっと案分の関係で細かくなっておりますけれども、これを差し引きました差額が負担金の対象となり1億4,317万円となっていると、そのような計算になっております。

同様に、その右側が補完運行の分になります。補完運行は、本町でいいますと阪南線、さくら坂循環線の夜間、早朝運行、それからそれ以外に白木線、それから河内線、石川線のほうの運行という形に、うちのほうは対象にはなりませんけれども、いわゆる5路線以外を補完する分という形になっております。こちら、同様に1億4,941万円となっております、運行経費、それから運賃収入を差し引いた額が計上されております。

その右側が印刷製本費でございます。こちらは、ポスターやバスマップ、それから時刻表、パンフレット等を今後作成していく必要がありますので、そのような費用となっております。

次は、定期発行費用でございますけれども、スマホ定期券のほうを今後つくっていく、その辺の開発の費用の関係と、併せまして、それから販売手数料、販売委託を行いますので、その費用がこちらに入っているという形になっております。

その横ですけれども、バス初期経費でございますが、こちらはバス停の標柱というのがございます。いわゆる停留所の柱というか、よく時刻表とかを貼っているあの指標といいますか標柱の費用。それから、近鉄、南海バスにおけるバスのアナウンスが新たにこの枠内といいますか、広域版で、近鉄、南海バスが走る千早線、それから阪南線、それからさくら坂循環線、いわゆる5路線について必要になりますので、その費用が含まれております。

それから、最後に休憩所というやつですけれども、こちらは富田林駅及び喜志駅にバスの運転手の休憩所をちょっと設ける必要がございますので、そちらの費用となっております。

上から2段目の枠になりますが、導入経費と、3段目の枠に経常経費として分けておりますが、導入経費につきましては一時的な金額となっております。今回導入するときに、どうしても先に必要な額という分類にしております。

その下の経常経費につきましては、こちらのほうは、これからちょっと継続的に運行するに当たり、かかってくる費用ですので、こちらにつきましては、今回、12月21日から3月31

日までの令和5年度の対象としておりますので、一番右端のほうに366分の102と書いておりますが、1年間を102日分で案分して計上させていただいております。

以上、これらの積み上げにより出た額が5,035万2千円という形になっております。

めくっていただきまして、次ページになるんですけども、運行経費の割合でございます。ちょっと細かい計算は様々あるんですけども、経費の割合につきましては、運行経費から、先ほど申しましたが、運行経費というのが運行に係る全体の経費から運賃等の収入を引いたもの、そちらについて費用の対象となってくるということで、当然運行するいわゆる路線のキロ数、それから運行する便数によって変わってきますので、キロ数掛ける便数で案分したものを市町村の活性化協議会に負担金として負担をさせていただくという形になります。

なお、石川線、河内線、白木線のバス運行経費につきましては、河南町が自家用有償旅客運送として富田林市域に入っていくという形になりますけれども、この場合、富田林市の負担につきましては、今は2分の1で計算させてもらっております。といいますのは、富田林市域に入りますと、5路線運行というので、もう既に本数が数本ありまして、その上さらに入ってくるということになります。そのあたりが、通常ですと、時間帯にもよるんですけども、富田林市側からした場合にちょっと過剰となるということも想定されますので、そのあたりは河南町として、このあたりは河南町、千早赤阪村もそうですけれども、負担できればという形で考えているところでございます。

それから、実際の割合につきましては、ちょうど真ん中のところに5路線の負担割合の表でございます。東條線につきましては、富田林市の丸々路線になりますので、富田林市が100%お支払いいただくという形になっております。千早線につきましては、富田林市、河南町、千早赤阪村、それからさくら坂循環線につきましては富田林市、河南町、阪南線につきましては富田林市、太子町、河南町、喜志循環線につきましては富田林市と太子町という形になっております。

以下、5路線以外の分及び5路線補充分につきましても、同様の考え方で、いわゆる営業距離による案分、路線距離による案分という形で計算をさせてもらっているというものになっております。

以上、簡単ですけども、資料の説明とさせていただきます。

○高田委員長

田中課長、ありがとうございました。

今、お配りしました資料は、またこれ予算ということもありまして、確定してはないとい

うこともありまして、一旦これを委員会終了後、回収させていただくということになりますので、ご容赦いただきたいと思います。

それでは、委員の質疑を行います。——力武委員。

○力武委員

まず、収入のほうからちょっとお伺いしたいんですけれども、これ交付税を505万7千円計上されておりますけれども、これはどういう中身なのかということと、もう一つは大きな問題なんですけれども、それぞれ4つの市町村で、今、負担割合とか報告されたんですけれども、一番問題は、それぞれの市町村が持ち出しするのは、急遽の問題でね、あるんですけれども、これは町長にあと答弁をお願いしたいんですけれども、国や大阪府の助成の対象になるのかならないのか、そういう緊急的なこういうことに対しての補助制度というのはないものか、そういうあたりの、なかったらそれなりの動きをしないとあかんと思うんですけれども、そのあたりの動き等々も含めてちょっとお伺いしたいと、まずお伺いします。

○高田委員長

後藤課長。

○後藤総務部人事財政課長

私のほうから、歳入のほうで計上しております普通交付税の件につきましてご説明させていただきます。

こちらは、今回の補正予算を組んだところ、河南町が一般財源として持ち出さなければならぬ金額というのが6,770万円ほどございます。それを、まず繰越金、前年度繰越金がある確定をしておりますので、それを目いっぱい使った形で前年度繰越金を増額させていただいて、それでもまだ足らんところがございましたので、そちらについては普通交付税の予算額を増額させていただいているということになっております。

先ほど、ちょっと私、申しましたように、令和5年度の交付税の決定額が22億4千万円ほどございますので、今、予算額のほうは当初予算で19億5千万円つけております。で、22億4千万円ほどの決定額になっておりますので、まだ余裕があるということで、500万円、今回追加計上させていただいております。

○高田委員長

森田町長。

○森田町長

質問は、突発的なこういう事象に対して何らかの支援と、そういうことやと思うんですけ

れども、こういう事態が想定されてたかどうかは分かりませんが、全部の会社が路線を廃止するというのは、やはり全国的に見ても多分初めてのことでないかなというように感じて思っています。

路線縮小とか一部路線の廃止とか、そういうふうなものは、それ以後、金剛バスがこういう状況になってから、何かいろいろ報道でいっぱい聞こえてきてまして、それまではあまり気にしていなかったから耳に入っていなかったのかどうか分かりませんが、全国的な傾向としても、やっぱり路線バス事業者の維持というのはなかなか難しいということで、ですので、言わば路線バスの維持するための補助金というのは国の交付金であるわけですね。それは、赤字補填という部分で、たしかいろんな基準があって、対象になるところは国から助成を受けられると。

ですので、今回のこういう事態に対してというような感じの部分については、なかなか想定外で、あまりないのではないかなと、その辺も含めて担当には何らかのそういうものがないかというのは言ってますけれども、なかなか難しい点だと思います。

ただ、金剛バスも、国の路線バスを維持するための交付金も頂いていたか、ちょっとよく分からないところがあるんですけども、一般的にバス会社については、路線バスの維持に対して、そういう制度を利用して助成を頂いて運行しているところもあるとは聞いています。

我々のところも、対象になるかどうかは、これからも詰めていかなければならないと考えています。

○高田委員長

力武議員。

○力武委員

その話は、あと松本委員がちょっと詳しいと思いますわ、質問されとるものであれなんですけれども、もう一つは、バスの購入金額、1台当たり220万円、5台で1,100万円ですけれども、これの積算といいますか、妥当な金額なのか、そのあたりの評価ですね、どういうふうな交渉なのか。それと、やっぱりこういう中古物件やったら、それなりの査定金額というのはあると思うんですけれども、そのあたりはどのように評価されたのかというあたりは、何か交渉の過程で示されたもの、あるんですか。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

一応、いわゆる中古市場の相場というのは調査させていただきました。大体、概ね、このような形のバスでありますと300万円から以上というのが多くあったというのは実情でございます。当然、車両によっても変わりますので、これが一概にどうなのかということも考えました。

ただ、今回の場合は、車両に加えて、さらに音響装置も全て入ったままで頂けるという形の契約をちょっと今回取らせていただく予定しておりますので、そこから、音響費用といってもかなり相当な額かかりますので、そこらにつきましても入っていてこの額でということで、古いというのも当然あるんですけども、そこらを踏まえたと、今回の契約額につきましては、安く買えたのではないかなということは、ちょっとそのようには思っているところではございます。

○高田委員長

力武議員。

○力武委員

金額については、素人の皮算用やないけれども、本当に安く買えたのではないかなというふうには思っているんですけども、そのあたり、きちんと相場との兼ね合いでされているということで安心させてもらいました。

それと、分担金の割合なんですけれども、これ、さっとしたら補助金及び交付金のところで5千万円の内訳を見たら、河南町は負担割合が34%になるんですよ、4つの市町村の割合で言えば。1億4,997万1千円に対して5千万ですから約34%と、これは4者協議の中で妥当な評価なのかどうかというあたりは、どのように担当課としてはやられているんですか。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

まず、いわゆる負担割合については様々な考え方があります。その4者協議の中でも、そういう利用者数を使えばというような話も実際ありました。

ただ、今のところ、何が一番確実なのかというと、やはりその運行の距離というのは、当然運行距離変わらない、それから便数というのがそれに乗じて、実際かかった距離というものもそれで出てくる、それに応じて燃料費もかかる、それからいわゆる運転手の拘束時間も決まってくるということで、一番指標になるところは、やはり運行距離でいくのが一番公平ではないかというような解釈はしています。

その中では、その話は4市町村の中でも当然話しておりますし、当初はちょっとまずこれでいこうという話では合意は取れております。

○高田委員長

ほかに。

松本委員。

○松本委員

順番に、まずお聞きしたいんですけれども、収入のほうで使用料858万5千円というのが今回、3か月弱ですけれども、計算されていますけれども、年間でいけば3,200万円ぐらいになるんでしょうけれども、この金額の算定根拠といいますか、ちょっと分かれば教えてもらいたいんですけれども、路線別で幾らずつぐらいの金額を見ておられるのか、ちょっと分かれば教えていただけませんか。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

基本ベースといたしまして、利用者数の見込みを出しまして、それに平均運賃を乗じて算出したというような出し方をいたしました。

路線別でいきますと、さくら坂循環線で——約でよろしいですかね——約270万円程度、阪南線で280万円程度ですかね、それから石川線ですと880万円程度、それから河内線で490万円程度、白木線で561万円程度、北大伴線で590万円程度という形で見込んでおります。

(発言する者あり)

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

収入のほうですんで、申し訳ございませんでした。

さくら坂循環線で270万円程度、それから阪南線で280万円程度、北大伴線で590万円程度。先ほど申しました額で、すみません、申し訳ないです、これが1年間ですんで、その360分の102をしたものが、今回、予算に積ませてもらっている額。

(発言する者あり)

○高田委員長

全部3分の1ぐらいで見ればいいということ。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

そうですね、はい。

(発言する者あり)

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

今、補完運行の町の予算の分という形で、すみません、説明させていただきましたので、路線別にちょっと私が先ほど申しました数字というのが1年間の数字になっています。それに、今回ですと366分の102日分を乗じていただいたら今回の予算計上額になるというのが、まず1点、お答えさせていただきます。

それと併せまして、5路線のほうの料金収入になりますけれども、そちらにつきましては、例えば阪南線でいきますと1,420万円程度の収入を見込んでいます。さくら坂循環線ですと1,350万円程度見込んでおります。これも1年間になりますけれども、その程度の収入という形で見込んでおります。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

予算ベースで、よくここまでやってもらって、大体収入分かりました。

これは、少なくとも、ある程度、今後の財源確保の一つの目安となるということなので、これよりも減ったら大変ですけれども、少しは、ある程度増えていけばええのかなと思います。

それで、その次、最後の諸収入、雑入のところですが、3,087万5千円、これは地域公共交通の協議会から、多分国から補填された分を、それぞれの比率に応じて、河南町に3,087万5千円補助されたと思いますけれども、この金額の算定の回収率というのは、先ほどは経費では34%ぐらいの負担率でしたけれども、今回の収入につきましてはどれぐらいの収入率になっているんですか。収入負担率、収入の回収率といいますか、4市町村のうちで。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

いわゆる広域負担の部分につきましては、その分が丸々返ってきているという形になります。

すので、3,087万5千円というのは町が自家用有償旅客運送するのに補填される金額として広域から頂いている金額そのものになっています。

それと別に、そのために別途、先ほどの5千万円を捻出して広域のほうに出しているという形になります。

(発言する者あり)

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

今、実際、歳出の金額が1億700万円ほどあります。それから、歳入のほうが3,900万円ありまして、その差額というのが6,770万円ほどになっています、歳入の金額と歳出の金額の差ですね。その金額というのが、町が実際事業をやっている金額という形になりまして、そのうち広域の自家用有償旅客運送、町が行う分の運行経費としては3,946万円。実際、これは歳入の金額なんですけれども、歳入の、先ほどの委員がおっしゃられました負担金と料金収入、両方とも合わせた歳入が丸々全体で今3,900万円で作らせていただきますけれども、これが丸々、自家用有償のうちの運営費に丸々当たってくるという形になります。

(発言する者あり)

○高田委員長

渡辺部長。

○渡辺総合政策部長

予算書の18ページあるじゃないですか。その燃料費569万5千円、印刷製本費60万円、修繕料225万円、役務費の24万と6万7千円、地域公共交通運行業務委託料の3,090万1千円、それから一番下の自動車重量税30万8千円、これを全部合わせると運行に係る経費、大体3,900万円ぐらい。その3,900万円から、うちが運賃収入してもらった800万円を差し引いた3千万円は、全部4市町村の広域協議会から負担金として入ってきますということ。

そやから、自家用有償運送で走らすお金、かかる全部のお金を合計しまして、そこから河南町が運賃収入で歳入して、その足らずの3千万円は4市町村の広域協議会から満額入ってきます。満額入ってくるので、自分とこで走らしているお金は、ですんで負担金の算出根拠に補完路線の経費も全部含めて5千万円を負担するということ。

(「引いたらええわけやな、そこから」の声起こる)

○渡辺総合政策部長

そう。ですんで、うちで走らすやつは、基本的にかかった費用から入った費用を引いた残り残額全ては4市町村の運営協議会から入ってくるんで、うちで走らすお金は、一旦はそこでゼロになって、全部の経費を出した上で、先ほどの運行距離の案分に基づいて各市町村に負担を求めてきたのが5千万円ということです。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

そうしますと、今のこれは分かりました、3千万円のあれは分かりましたけれども、そうしますと、今後、年間経費としてかなり、今回のあれいきますと、3か月あまりで5千万円かかるんで、年間でいくと、やはりその4倍ですよ。今、これ3か月ですよ、3か月で5千万ぐらい負担しているわけですね、今回は、我が町は。それが年間負担となると、これの4倍分ですよ。ということは、2億もかかるんですか。

○高田委員長

ちょっと待ってください。

渡辺部長。

○渡辺総合政策部長

お配りさせてもらった1ページの資料で、導入経費で河南町の負担が1,955万7千円。それで、運行経費で1億1,228万7千円、これを日にちで割ったら3,129万4千円なんで、この3,129万4千円と導入経費の1,900万円を足したのが今年度の負担金の5千万。

それで、次年度以降に出てくる総額というのが、その経常経費の河南町の年間負担額の1億1,200万円というのが概ね年間かかってくるであろうという経費になりますということです。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

それで、これいろいろと、国のほうでもいろいろと地域公共交通の確保維持事業というのありまして、これでいろいろと負担に対して、赤字路線に対して半分国が補助しますよというのがあるということで、これはいろいろと今後、先ほど町長がおっしゃったような形で、また補填の分を法定協議会ベースでまた請求されていくと思うんですけども、この金額については、近鉄バスと、それから南海バスが走る路線についても、この対象になるというふ

うに認識しているんですけども、この辺については、今後、これから協議会で検討されて、やはり国のほうに支援を求めていかれる、それから大阪府のほうにも支援を求めていかれるということを考えているんですけども、その辺はいかがなんでしょうか。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

現在、金剛バスのほうが、いわゆる確保維持事業というやつで国のほうから運営費の補助金を頂いておられました。また、新たな路線につきましても、そのまま一定程度継続して運行しますので、その運行状況によって、当然赤字であればその対象にもなってくるという形にはなります。

ただ、例えば、その運行の利用者が、基準がありまして、1日150人以上乗っている路線は駄目であるとか、そういう制限がちょっと要件にはございますので、そのあたり合致するのかも含めながら、協議会のほうでは、当然該当するものについては歳入は取っていくという考えはしておりますので、協議は進めてまいりたいと思っています。

○高田委員長

すみません、もうすぐ12時になってまいりますので、松本委員の質疑だけ終えた後に、午後から休憩に入りたいと思います。

○松本委員

分かりました。それまた、改めてまた聞きます。

○高田委員長

よろしいですか。

それでは、まだ議論を尽くしていませんので、ここで午後1時まで休憩としたいと思います。よろしくお願いします。

休 憩（午後0時00分）

~~~~~

再 開（午後1時00分）

○高田委員長

それでは、休憩前に引き続いて会議を再開したいと思います。

浅岡委員。

○浅岡委員

午前中からのバスの購入費1,100万円ですか、1台当たり220万円とか言うて、非常に安く入手できるというご意見も出ていたんですけども、今回、目に見えて値段というんか金額が分かるものって、バス購入費ぐらいかなと思うんですけども、購入に当たっての基準、1台幾らというような基準を何か設けて購入されたのか、その点ちょっとお聞きしたいんですけども。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

基準がもう、先ほどもちょっとあったんですけども、いわゆる市場価格的なものを調査しまして、概ねそれが大体300万円ぐらいというのが主流でありましたので、1台ですね、それが一つの目安かなという形では交渉しておりました。

○高田委員長

浅岡委員。

○浅岡委員

現在、金剛バスは20台ぐらい持つてはるんかなと思うんですけども、それら各1台ずつ、距離数とか何年度の購入されたものとかいって、我々、例えば中古車買うときにその部分を見て買うと思うんです。そういった精査というのは、各市町村、購入されるんかな、でお話は出たのか出ていないのか。市場価格ということなんですけれども、その中でもいろいろ千差万別あると思うので、河南町が購入するものに関して、そういったところに目をつけていただいているのかどうか。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

バス購入につきましては、河南町がメインで購入しますので、特に4市町村でこういうものを買うとかいう話はしておりませんでした。

ただ、その年式の話、それから型番とかそういうことも今おっしゃっていただきましたけれども、おっしゃられるとおりでして、形によって、やっぱり故障の多いものとか当然あるかとは思いますが。そこらも注意しまして、今、金剛バスのバスの情報みたいななんもネットにも出ていたりとかしてまして、実際、金剛バスのバスというのが、一番新しく大体2023年、24年ぐらいに購入されているやつぐらいが一番新しい。

(「2000」の声起こる)

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

ごめんなさい。平成23年、平成24年ぐらいですね、ごめんなさい、平成です。そこから古くは、何台かそないなってくるんですけども、その中で当然比較的調子のいいやつで、かつ新しいものというのを、ちょっとうちもそれを欲しいんやという話では協議はさせてもらいました。

それで協議して、大体この車両というのを頂きまして、それを基に、一応うちとしても、整備会社さんとかもおられますので、そこらにもちょっと確認しつつ、この中では当然問題ないだろうねというのを選定して選んでおります。

○高田委員長

浅岡委員。

○浅岡委員

実は、今、ちょっとお昼抜けたときに、金剛バスの後ろを走っていて、黒い煙吐いてね、その車両やったんです。私も毎朝、金剛バスに出くわして、立ち位置で出くわしております。いろいろあるんですね、この、まだもちそうなやつとか、もう大分くたびれとるなとかいうようなやつも見かけたりしますんで、これ、なぜその年代物とかそういったやつをお話するかいうたら、せんだって購入したカナちゃんバス、いきなりもう新車の、購入して修理というようなこともありましたんで、現時点でこのバス問題について、先ほども言いましたけれども、目に見えて数字の出せるものを買うわけですから、ところやと思いますんで、まだ交渉の余地があるんでしたら、もうちょっとたたいてって言い方悪いですけども、要するに物を買ってほしい側、売ってほしい側、これによっていろいろな値段が変わってこうかなと思うんです。

可能であれば、交渉の余地があれば、もうちょっとお安くなるんでしたら、努力していただけたらと思うんですけども、いかがでしょうか。もう決定ですか。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

かなり、交渉もかなりしてきまして、内部でも、もともともうちょっとあった感じのやつをだんだん下げてきていただいたという経緯もございまして、大体今がちょっとアッパーぐらいかなというところまでは来ているのかなとちょっと考えています。

○高田委員長

浅岡委員。

○浅岡委員

いきなり、買って、また修理やかいうことのないように、できるだけしていただけたらと思いますので、よろしくお願いしておきたいと思います。

以上です。

○高田委員長

ほかに。

佐々木委員。

○佐々木委員

このバスは、何年ぐらいもちそうなものなんですかね。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

バスでしたら、20年とか、それ以上も通常もちますので、今回買おうとしていますのが、平成21年、平成22年ぐらいに買うたやつですので、まだ15年たっていないぐらい、十二、三年ぐらいの落ちになっています。比較的新しいものを全部買いますので、そのあたりからすると、まだちょっと先には乗れるというふうには考えています。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

じゃ、5年をめぐりに入れ替えようかなという感じ、もっと使えるんやったらできるだけ、でも安全面もあるから。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

すみません。まず、そうですね、少なくとも5年以上は当然乗りたいですし、あとは、今の機会に、例えば、今、ちょっともうご存じかと思いますが、金剛バスというのがICカードの機械が入っていないんですね。それを、今度、近鉄バスとか南海バスとかと合うようなやつをまた入れるとすると、ちょっと桁も結構大きい、音声合成とかを入れていかな

ければならなくなってくると。

私どもも、以前、昨年度に予算ちょっとお願いさせていただいて、ちょっと結局執行が止まっちゃって、金剛バス、できなくてというのがあったかと思うんですけども、それかそれ以上ぐらいのお金もまた要ったりしますので、その辺を考えていくと、その機械の入替えと併せて、何かそういうのを同時に入れていくほうがいいのかとか、補助金が使えるバスの購入方法がないかなともちょっと考えていきたいと思っているんですけども。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

この、今日、頂いた資料、数字が入っている資料を頼りに、私たちが今、予算の根拠はこれかというふうに見ながら議論をしているんですけども、これ一番初めに委員長がおっしゃっていたのが、これが確定した数字ではないから返してほしいという話やったじゃないですか、資料自体を。

これ、何がまだ不確定要素があるのか、これを基に話し合っているのに、これ確定じゃないと言われたら、私たちは一体何を話し合っているのかということになるので、不確定要素がどこにあるのかというところと返さなアカン理由というのがよく分からないんですけども、それもうちょっと詳しく言ってもらっていいですか。

○高田委員長

多村部長。

○多村総務部長

すみません、一応これ予算ベースというところでお示しさせていただいているんですけども、この予算で議決をいただきましたら、運行委託の業者と再度見積りを取り直して契約を交わしていこうと考えております。

ですので、この資料はちょっと回収させていただきたいというところです。よろしくお願いします。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

分かりました。

あと、結局、収入見込額というのを先ほど午前中に田中課長がおっしゃっているのを聞いて

たら、やっぱり一番おいしい時間帯の一番おいしい路線というのを近鉄が持っていくという形じゃないですか。黒字になるかどうかというのも、黒字になったら全部返してくれるのかも分からへんし、その運行経費をどういうふうに計算するというのも、まだ大分あやふやな中で、ほんまやったら、じゃ、ここも含めて、運転手不足とかが関係なかったら、河南町で全部運営するほうが、ほんまやったら黒字に近づいたんじゃないかと思うんですけども、そのあたりの見解と、実質走らせてみてそういうふうになったときに、運転手を何とか確保してそういう形にする見込みがあるのかどうかというところはどうかでしょうか。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

委員仰せのとおり、近鉄バス、南海バス、まず路線バス事業者という形で、ずっとそれを主業として当然やっておられるところがやっています。

自家用というのは、町が運転手等を雇用して、ただ、専門性は当然、一般の乗合事業者と違って、バス専門やっているのと私どもと、どうしてもちょっと運転のサービスのなものとか、それはこれまでの流れとかもあるでしょうから変わってしまうというのが一つあります。

町として本当にやりたかったのは、全ての路線を近鉄バスと南海バスに本当はやってほしいんです。全部委託して、もうプロに任せると、そこは。それに対して、必要なところでもうけがあれば当然返ってくることもあるでしょうし、不足したら不足分はお支払いしたいというふうにしたいというのが、まず大前提にあります。

ただ、それがちょっと今回、向こうも運転手不足であったと。だから、お手伝いできるのが、今でしたら近鉄バスで3路線、南海バスで2路線しかできなかったということで、残りは、そしたらもう町が補完して埋めていこうという形になっています。

ですので、ちょっと赤黒の関係もまずあるんですけども、その前に一旦は、もし景気がよくなったりとか、運転手が増えてきて、近鉄、南海バスがどんどん、これちょっともうけじゃないですけども、ゆとりが出てきている、運転者に余裕ができるなど、そういうものが出てきたら、運行範囲を拡大してもらい、運行便数を増やしてもらい、シフトしていただきたいと思います。と思っています。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

それは、全部、財務状況というのを全部出してもらうという前提での話なんですかね。この路線だけの財務状況というのを、また別に出せるのかどうか、よくなるという判断がすごい難しいし、資料、そんなうまく出してもらえるのかなと思うんですけれども。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

路線ごとのやつ、まあ言うてみたら、その収支というのは、なかなかそのバスの運行の性質上、確かに出しにくいんです。どうしても案分になってしまいますんで。というのは、バスが、同じ路線だったり同じバスが走れば料金も全部同じなんですけれども、違う路線走って、違うところを走って料金を取れば、その路線のお金も混ざりますし、そう一体になるんで、そこはちょっと案分して考えたりとかするというのがバス事業者でもやられている分け方なんです。

ただ、その黒字の関係、赤字の関係につきましては、やっぱりどうしても最後に、協定して委託しますので、年度末には運行報告書みたいなものが上がってきますので、そこでのちょっと審査になってくるのかなと、適正であったのかどうかというのも含めまして確認することになると思っています。

○高田委員長

佐々木委員。

○佐々木委員

ある程度、主導権をもう、向こうのほうは何枚も上手かもしれないんですけれども、ある程度の主導権というのを握っというてほしいというのができると田中課長は一応今おっしゃっているんで、是非よろしくお願いします。

取りあえず、以上です。

○高田委員長

ほかに。

廣谷委員。

○廣谷委員

まず、この資料からなんですけれども、5路線以外の方で、路線の補完分100や36.93とかパーセンテージで表していますよね。この補完分というたら、足りない分をこういう割合でやるということですよね。ほんで、ベースとしてあるよって、ベースはあって、足りない分

を案分で割っていく。その意味はよく分かりますんやけれども、ほんならその足りている分というのは府からの補助金であり、国からの補助金ですか。全く自治体は関係ないという意味ですね、違いますの。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

すみません、5路線のほうは、いわゆる近鉄、南海バスが運行してくれはる分という形になっていまして、その5路線の補完分というのが、例えば河南町でしたら阪南線がございます。それ、近鉄バスに走っていただくんですけれども、そこは朝からずっと近鉄バスが走っていただきまして、最終、夕方6時ぐらいに運行が終わりますので、それ以降を河南町のほうで補完運行を行うという分になりますので、その分の町の運行分という形で、そこにちょっと費用もかかりますので、町が運行する費用に対して分担をちょっと頂くんで、そういう形になってくる。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

そこは分かるんやけれども、石川線とか河内線とか北大伴線の割合あるでしょう。それは町が運営しますわね。その補完分が、こう書いていますわね。もともとの足りている分はどこから出ているというて聞いてんねんけれどもね。補完分ですよ、足りない分を割合してんやろ。

(発言する者あり)

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

そうですね、5路線補完の分になりますので、町が自家用有償で走らせるのが表の下側の部分ですということで、上のほうが、単純に言いますと、近鉄、南海バスが走らせる5路線の分ですということで、比率については、近鉄、南海バスが走っても、我々自家用、河南町が走っても、同じ案分の比率で各市町村からお金を頂戴させていただくということになっております。

○高田委員長



渡辺部長から説明してください。

○渡辺総合政策部長

話の経過として、4市町村で共同して金剛バスの代替交通を考えようという形になって、その段階で各市町村で1路線あるいは河南町は阪南線、大宝地区とさくら坂地区があるんで河南町は2路線欲しいということで、千早赤阪村は千早線、富田林市は東條線、太子町は喜志循環線、河南町は阪南線、さくら坂、この5路線を4市町村協議会の中でまず運営しようというのがスタートなんです。

その中でも、河南町は、それ以外に石川線、白木線、河内線というのがあって、それは最初はその4市町村協議の中には入っていない路線。そやけども、河南町はその他の路線についても当然運行しないといけないということで、そこはもう河南町が自家用で運行しようというふうになって、それを何とか4市町村協議の中に入れていただいているということなんです。

そやから、もともとは5路線が4市町村で運営しようということでスタートしたんですけども、最終的には河南町が石川線、白木線、河内線も走りたい、富田林市域に入っていきたいということで、広域の4市町村協議の中のテーブルにのせてもらっている路線という。で、その4市町村協議の中で、今あるこの路線全部を運行してもらおうという形にはなっています。

その中で、負担割合なんですけれども、主要5路線については、最初から運行距離でやっという話でなっていて、それ以外の路線については、富田林市としては、白木線、河内線って重複路線になるので、走っていないというふうな考え方もあるんで、いや、それでも河南町は走りたいということで、何とか市域入っていくんで富田林市にも負担を求めに行って、運行距離の半分は富田林市から頂こうというような内容で、主要5路線とその他路線とはちょっと考え方が違っておるんです。

だから、もともとのベースというか、石川線、河内線、白木線というのは、もともと走らない、4市町村協議の中では走らない路線の中に入っていたんですけども、そこを4市町村協議の中に入れていただいたということでご理解いただきたい。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

全く理解しているよ、それは。いや、理解していて、この石川、河内、白木、北大伴線を、

これ路線の補完割合でやってるやん。な。足らん分を頼んでんやけれども、足りてある分はどこから出たんやと聞いただけや。全部、これ100%で運行するん違うやろ。これ、何で、ほんだら補完と書いてあるというのを、意味を教えてほしいということや。そやから、これで、この100%を合わせた白木線も河内線もこれで運行するという意味、全ては。ほな、補完違うやん、これ。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

そうです、はい。委員おっしゃっている意味での補完ではないです。あくまでも町が運行する分です。

○廣谷委員

町が運行して、全体でやって、それを割りますよと言ったら分かるけどな。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

そうです。

○廣谷委員

この書き方やったらな、補完と書いてあるからな、そこを聞いてんやけれども、それはもう最初から説明されたけれども、分かって座ってんやからな、別にそなん、何遍も聞いてんやから。そうやろ。違うか。そんなおかしな書き方したら、おかしな取り方になるからな。

ほんなら、この北大伴路線なんか100%って富田林書いてあるけれども、補完が100%であって、元のお金は河南町が全部出してへんかと言うたらおかしなるよいう意味やん。

ほんでもう一つ、小さいお金やけれども、5路線以外に走らすバス、金剛バスへの広告、今、後ろ貼ってるやん、横でも何でもええわ、車内でも、そこの広告は、河南町は河南町で走らすバスは独自に広告収入としていけるのか、それは議題に上がらんかったん。それはどないなんの。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

まだ、協議会では、今、委員おっしゃった広告収入のところまでは、実際、話は上がっていませんでした。

ただ、今、その話も、車両購入との絡みで広告業者ともちょっと接点がありまして、お話

はちょっと進めさせてもらっておりまして、やはり今、もう使っているやつでついている分については、継続してもし使っていけるならば、幾らかでも当然財源として入ってきますので、その分、充当できるようには考えています。

○高田委員長

廣谷委員。

○廣谷委員

ほんで、全国どこでもやけれども、電車もバスも利用者を、これなくなるというたら、利用者を募ると言うてええか、いろいろあの手この手考える。

河南町でも、どこかあれを起点にして有名にして利用者を増やす、ほんでできるだけ富田林市に行くのをバスで行ってくれというようなことも言うていかなあかん。そのために、さきに言うたけれども、バス停とか、それでも、これ100年前にできたバス停が、そのまま旧村やったら使われてるよって、ほんならそこから家も建ち、何も建ち、全然もう地域のこの流れというのも変わっているのに、寛弘寺なんかでも20m上になるというたら、またいっばいクレームつくと思うねん、あれ離れてね。今、交差点内は警察があかん言うたから上へ20m延ばす言うたけれども、三差路であんまり車も行き来されへんようなところで、バス一時停止の何十秒かの間で、一番見通しもええところで止まるのがあつこのバスやってんけれども、それを延ばすいうたら多分いろいろクレーム来ると思うんやけれども、やっぱり利用者を1人でも多くしようと思ったら、バス停の問題も、もう100年続いたバス停より今の新しいバス停、寺田なんかはあそこでちょうどええやろうけれども、交差点のあんところで、そういうところで、うちの出屋敷のところでも、降りたらすぐ溝で、何遍も年取ってはまる、障がい者やったら絶対乗らはらへんようなところから。

だから、そういうところをもう、利用者を募るに当たって、これからやけれども、そういう課題があるというのを強く言うとか、今はそんなん言うてる場合ちゃうよってあれやけれども、そやから河南町が大方このバス利用が一番多いんやから、少しでも利用者を多くするために、これから高齢やし、年いってきて、障がい持っている人も多いし、そんな人がバスを利用するに当たって、それを強く言っというてほしいというのは、これほんまに希望やから。是非よろしく願いますわ。終わり。要望で。

○高田委員長

大門委員。

○大門委員

今、5路線のことは言うてくれはったんですけれども、バスを、金剛バスで買う5台はどこに使って、あと補完するのはどういうバスで対応するのかということと、人の手だてはできたのかということをお教えください。運転手さんの手だて。

○高田委員長

渡辺部長。

○渡辺総合政策部長

1日のうちで、阪南線の夜の分は必ず1台、金剛バスが走ります、夜の分は。ほんで、石川線は1日中、午前中はカナちゃんバスの北部を走って、昼間は金剛バスが走ります。あと、もう一台が、さくら坂循環線の補完部分と河内線、白木線は抱き合わせで1台走るの、常に3台は必要にはなります。その中で、常に3台動いているんで、予備車用と万一用で今のところは5台という形にはさせてもらっています。

それで、運転手のほうの確保は、近鉄、南海バスは、もうそこで対応できると思うんですけれども、これから自家用有償運送でやるところについては、今、河南町内で受託してくれてはる交通の、カナちゃんバスを運転している株式会社みつばコミュニティ、それから近つ飛鳥小学校のスクールバスを運行していただいているMK観光バス株式会社、かなん桜小学校のスクールバスを運行していただいている大新東株式会社、今、その3社のほうに運転手の確保等の協議の依頼はもう既に進めています。

そこに運転手の確保をお願いした上で、河南町が用意する車両で補完したり、足りない路線の運行をしていくという形で今は計画しています。

○高田委員長

大門委員。

○大門委員

今、走っているカナちゃんバスの夜の部とか、6時の部とか朝の7時の部とかいうバスは影響が出るんですか、出ないんですか。

○高田委員長

渡辺部長。

○渡辺総合政策部長

今、7時、8時、町内循環しているやつの7時、8時台は富田林駅に向かいますんで、町内循環の7時、8時を利用してはる住民さんには影響が出ます。

夜も、16時までは町内循環するんですけれども、17時、18時発は、帰りの便に富田林駅の

ほうにカナちゃんバスは動くので、夕方の17時、18時の町内循環のカナちゃんバスを利用される方に関しては、影響が出てくるとは思います。

○高田委員長

大門委員。

○大門委員

17時台って、子供たちたくさん、今、乗っているじゃないですか、カナちゃんバスに。中学生、その人たちも影響出るし、一番最終便で、南部回りやったらオークワから帰る人がたくさんいてはるんやけれども、それにも影響出てくるということの周知なんていうのは、いつ頃からやっていただけるんですか。早めにちょっと知っとかはれへんかったら、いつも乗らはる人は、いつも同じなんで。

○高田委員長

多村部長。

○多村総務部長

当然、今、利用者を見ましたら、朝も中学生の方、夕方も中学生の方のご利用が多く見られております。とて、この緊急事態というところで、やはり循環外、富田林駅のほうにどうしても回していかないと、ちょっと今が苦しい事態となっております。

周知のほうですけれども、もう間もなく、12月広報等で周知させていただく、また車内のほうでもまた周知させていただくということは、もう早めに準備はさせていただこうと思っております。

○高田委員長

以上、よろしいですか。

松本委員。

○松本委員

最後に、私、1点だけ。

今年度、令和5年度の12月から来年3月までの今回のこの予算は、1億700万円は理解しました、いろんな資料を頂きましてね。最終的には、財源不足は今年度は繰越金というのがメインとして財源手当をするということで、ある程度理解いたしました。

一方、この今日頂いた資料を見ますと、今後、年間の経常経費、これ河南町としては1億1,200万円の経常経費、これからかかってきますねと。じゃ、これをどのようにして賄うのかというと、まず運賃収入が幾らかと見ますと、これ運賃収入も今年度の、これ予算ベース

でいくと約860万円ぐらいですから、これの4倍として3,200万円ぐらいかな、年間の運賃収入3,200万円ぐらいですね。そうすると、1億1,200万円の経常経費に、収入としては3,200万円ということで、まず8千万円ぐらいはやはり財源負担が出てくると。

この8千万円の財源負担、来年度以降、まずどういうことでこの財源を確保するのか、まず一つお聞きしたいと思います。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

ただいまちょっと委員おっしゃっていただきました運行経費の関係なんですけれども、1億1,200万円という部分が、これ運行経費ベースで入れておりますので、料金収入を引いた後になっています。だからそれ、丸々1億1,200万円ほどが必要になってくるのかなというのがまず1点ございます。

あとは、契約をこれから先、予算をまた当然許可いただいてから執行していくわけなんですけれども、そこでどれだけ、落札なり含めて契約のときに調整できるか、今は緊急事態ですので、そこがどこまで絞れるかというのは難しいんですけれども、まずは一旦は、今回、ちょっと10か月で債務負担を取らせていただきましたけれども、これは現行のカナちゃんバスの契約期間として来年度1年間の終段といいますか、それと併せて、一旦ここで切って入札をしていってという形で今後はちょっと考えて、コストダウンを図っていききたいと。

それまでの間につきましては、ちょっと財源的なことになりますと、取れるものについては補助の申請とかはしていきたいんですが、ちょっとこういう事業に充てる財源があまりないものですから、そこらにつきましては、ある財源を探しつつ見つけまして、当面は財政調整基金になるのか、ちょっとそこら辺は財政とも相談しなければなりませんけれども、なるべく一財の出す量を減らすような形で考えていききたいと。

○高田委員長

松本委員。

○松本委員

分かりました。

1億1,200万円、これから常に河南町として負担になると、非常に大きな金額なので、いろいろと財政調整基金も今11億円ちょっとぐらいしかないと思うし、あつという間に、あと5年したら半分以下になるし、もう財政が危なくなるという状況になりますから、お願いす

るのは、やはり国への補助、それから大阪府への補助、これをやっぱりしっかりやっていく必要があるなと私は思っています。

したがって、先ほど、午前中も言いましたけれども、国がいろんなメニューも持ってくれていますから、この辺の地域公共交通確保維持事業とかいろいろありますから、赤字の半分負担すると言ってくれていますから、基本的にやっぱりしっかりと補助をもらうものはもらって申請していただくということは、まずお願いしておきたいと思います。

財政調整基金をできるだけ、やはり維持できるような形の財源確保に、しっかりと国への要請、大阪府への要請をしていただきたいと、これだけはちょっと私、要請しておきたいと思います。

○高田委員長

要望ですか。

○松本委員

以上です。

○高田委員長

力武議員。

○力武委員

運転手の確保を大門委員が質問されましたんですけれども、MK観光バス株式会社や、今、スクールバスを運行している会社に委託する、それはそれで結構なんですけれども、最大町内で走っているときについては、カナちゃんバス2台とコミバスがそれ以外に3台で路線バス1台という形になりますよね。6人の体制が最大ピークで要るような形だと思うんですよね。

そうなったときに、路線バスは近鉄が運行するんだけど、それ以外のコミバスを運行するときに、いろんな実務的なトラブルや何かあったときに、時間の調整とか、細かい調整が入ってくると思うんですよ。

そういう際に、運行は一任するにしたって、どこがそこを主体的にコントロールするんだといったときに、MK観光バス株式会社なのか、また別のところなのかというあたりの調整でやっていく必要があると思うんですけれども、そのコントロールセンターというのはどこが受け持つようになるんですかね。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

その部分につきましては、あくまでもMK観光バス株式会社、それから3社ほどありましたが、運行主体がどうしても町に、この場合は自家用なので、なってしまいますので、全て町から、あくまでも運行委託という形で運転して、言い方は悪いかもしれませんが、派遣的なイメージになってくるのかなと思いますので、どうしても主体は町となります。

○高田委員長

力武議員。

○力武委員

通常運行だったらいいんだけど、トラブルとか何か事故ったときの分の対応というのは、町が責任を持つということ。急遽、運転手があるとき体調の管理とか、そういう何かあったときに、その時間帯運行できないといったときの予備的な運転手は常にいてはるのか、そういう配車の関係の管理は、例えばの話、田中課長がやるのということになるわけやん。そんなのできるの、実際のところ。

○高田委員長

田中課長。

○田中総務部副理事兼総務課長併選挙管理委員会事務局長

すみません、今のはちょっと、私、極論申しましたが、そういう運転手の確保という意味合いでいえば、町と運行委託事業者の中で、この時間この便数を走らせてくれという契約を結んでいますので、そこに運転手を1人派遣する、2人予備のために確保する、そういうお金は全て、例えばMK観光バス株式会社ならMK観光バス株式会社の中に含んだ契約としますので、そこは向こうがやってくれと、そないいう形になります。

○高田委員長

ほかに。ないですか。

それでは、なければ議案第19号、河南町一般会計の補正予算（第4号）の委員の質疑を終結したいと思います。

以上をもちまして、本常任委員会に付託されました議案についての質疑を終結したいというふうに思います。

これより、委員会としての討論、採決を行います。

それでは、議案第19号、令和5年度河南町一般会計補正予算（第4号）の討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕



○高田委員長

なければ、討論を終結します。

次に、採決を行います。

議案第19号、令和5年度河南町一般会計補正予算（第4号）を原案どおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○高田委員長

挙手全員と認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決しました。

~~~~~

○高田委員長

以上をもちまして、予算・決算常任委員会に付託を受けました議案の審査は終了いたしました。

この後、休憩後に開催されます本会議において、決しましたとおり報告をしたいというふうに思います。

本委員会中、字句等の修正がありましたら、委員長のほうで修正させていただきたいと思いますので、ご了承のほどよろしくお願いします。

なお、議長を除く全議員が委員となっておられますので、委員長報告としましては簡潔に行いたいと思っております。委員各位におかれましては、よろしくご了承のほどお願いいたします。

最後ですけれども、議長、何かございますか。

○中川議長

各委員の皆様、ご苦労さまでございました。

多くの意見をいただきました。

今回の事業ですけれども、緊急事態ということで、やむを得ない部分はあると思うんですけれども、今後は河南町の住民の足を守るということで計画的に、運行計画等もしっかり組んでいただきまして、その辺、またよろしくお願いしたいなと思います。

あと、臨時議会の再開の時間ですけれども、15分程度、今からいただきたいと思いますので、13時50分に再開いたしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○高田委員長

分かりました。

それでは、これもちまして補正予算の審査による予算・決算常任委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

午後 1 時 3 6 分閉会

~~~~~

委員会条例第27条の規定により、ここに署名する。

予算・決算常任委員会委員長